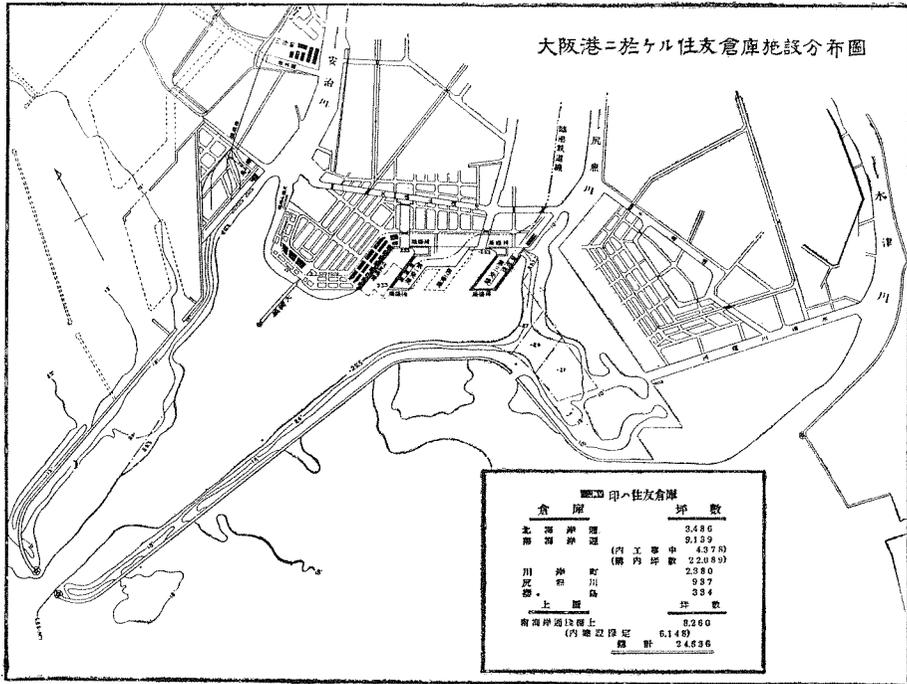
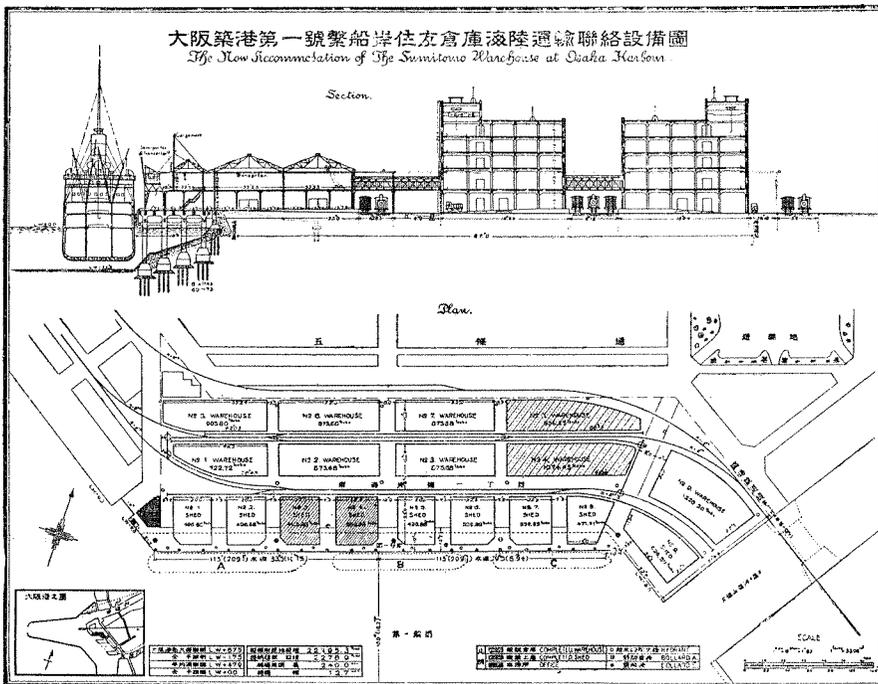


(1) 大阪築港平面圖

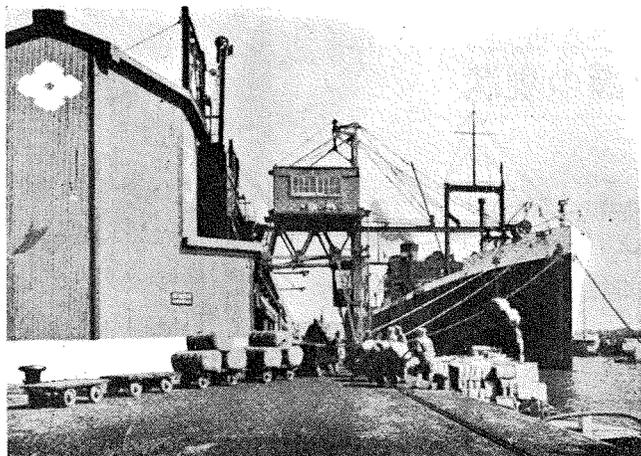


(1) Plan for Osaka Harbor.

(2) 大阪築港住友棧橋海陸連絡設備圖



(2) Sumitomo Pier, Osaka Harbor, and its Equipments.



(3) 住友棧橋上屋に於ける荷役。
(3) Loading Cargo from Sumitomo Warehouse.

大阪築港の 住友棧橋設備

住友倉庫埠頭事務所 山本五郎

大阪築港は故、沖野博士の設計に依り出来たもので、築港の埋立が出来た大正三年頃は草茫茫たるもので、中々利用の路が立たなかつたが、住友で三千坪の倉庫を建設して利用の緒を開いた。その後大阪港の將來の進展の爲に、且亦倉庫事業の前途の爲に、住友は同方面に於ける港灣設備を充實せしむる事の甚だ急務なるを感じ、進んで繫船棧橋を築造せんことを願ひ出で、大正八年十二月十九日大阪市の委託工事としてその工を起し、それより大阪市の築港工事と相俟つて工を進め、六年四ヶ月の歳月を経て竣工を告げたのが此の住友棧橋である。一方市の港灣設備は近々第一、第三の突堤が竣工する事になつて居るから臨港鐵道が開通した暁には、大阪港はその面目を一新する事になる。

繫船棧橋

全長 240間 出幅 12.7間
水面上の高さ(平均干潮面以上) 11.5尺

構造 鐵筋コンクリート造

前面の水深は西半分は朔望平均干潮面下 33.5尺(10.2米) 東半分は同 29.5尺(9米)を保ち、一萬噸級の船舶を繫留するここが出来、六千五百噸級の船舶は同時に三隻繫留するここ出来る。

荷捌上屋

荷捌上屋は鐵骨亞鉛張二階建である。

既設のもの 2棟 2,112坪

建設豫定のもの 6棟 6,148坪

上屋に設備せる荷役機械は四種類あります。第一は、トランスポーターを上屋 1棟毎に 3基。捲揚容量、一基に付 1.5噸。荷役能力、毎時 1基に付 90噸。第二は、オーバーヘッドクレーン、捲揚容量、1基に付 1.5噸。荷役能力、時毎 1基に付 150噸。第三は、セミポータルクレーン、上屋 2棟毎に 1基捲揚容量、1基に付 1噸。荷役能力、毎時 1基に付 60噸。第四は、トラクタートレーラー、トラクターの牽引能力、20噸。トレーラー 1臺の載貨能力、1.5噸。



(4) 住友棧橋上屋間のオーバーヘッドクレーン。
(4) Overhead Crane at Sumitomo Warehouse.